

「母と子のキヤツチボールや風光る」の句、母と子のほほえましい情景が浮かんできます。季語の「風光る」によって、いつそう句の内容にふくらみが見えるようになりました。

次回例会

四月十八日(火) 午後一時三十分 県活セントラル
兼題 「花疲れ」

兼題一花疲れ

初雀 梅田ひろし

遠足の子ら。ボニーへと走り寄る
春一番鶏鳴天に響かざる
大寺のびたりと閉ざす春障子

梅田ひろし選

牛遷

母と子のキヤツチボールや風光る

外階段下りる鞆音冴返る

やんばりとゆれる曙光や春暉子

卵黄のごとき春日の沈みゆく

三ノ二、墨念の「一ノ二」の上

入選

春障子明るき未来透きてをり

笑ひては死きぬおしゃべり

点々と火を落としては畳を焼く

病窓の看護—心臓病科に

立春やエイサーの輪に引き込まれ

七二八二垣根を越えて夏みかん

落のたう限つての先こ見えはじめ

隣人の退院羨む春日和

鳶川忠義
大森 勇
山田泰子
鈴木清子
野良テル

A wooden box filled with white beans sits on a light-colored surface. To the right of the box are two cartoonish characters resembling bean sprouts with faces, one blue and one red, wearing green leafy hats.

市川三重子

清江

高橋幸子

市川三重子

久保田圭子

薦川忠義

萬葉詩集

滝澤正高